

2019年3月期 連結業績概要

2019年5月13日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
増山 津二

決算サマリー

2019年3月期 業績概要

- 売上高2,743億円(前期比12%増)、営業利益352億円(同74%増)で増収増益。
- コンデンサは前期比19%増収。
すべての用途で売上が増加。特に自動車向けが牽引。
- 売上高と当期純利益は、過去最高を更新。

2020年3月期 業績予想

- 売上高2,900億円(前期比6%増)、営業利益380億円(同8%増)を計画。
- 自動車、情報インフラ(基地局通信装置、データセンタなど)向けを中心として電子部品の需要拡大が続く見込み。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

2

2019年3月期 業績概要

売上高は前期比12%増の2,743億円、
営業利益は74%増の352億円で、増収増益を達成。

コンデンサはすべての用途で売上が増加したことにより、前期比19%増収。
特に電装化が進む自動車向けが牽引。

売上高と当期純利益は、過去最高を更新。

2020年3月期 業績予想

売上高は前期比6%増の2,900億円、営業利益は8%増の380億円を計画。

電子部品の需要拡大は当面続く見通し。
特に、自動車、基地局通信装置やデータセンタなどの情報インフラ向けは
中期的に安定した需要増が見込める。

2019年3月期 連結業績概要

百万円	2018年3月期		2019年3月期		増減	
売上高	244,117	100.0%	274,349	100.0%	30,231	12.4%
営業利益	20,221	8.3%	35,237	12.8%	15,016	74.3%
経常利益	20,553	8.4%	34,351	12.5%	13,797	67.1%
親会社株主に 帰属する当期純利益	16,355	6.7%	23,687	8.6%	7,332	44.8%
対米ドル期中平均レート	111.44円		110.49円		0.95円円高	
為替変動による影響額	売上高△17億円、営業利益△12億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	10,574		13,039		2,464	23.3%
設備投資額	24,549		38,570		14,021	57.1%
減価償却費	25,589		26,547		957	3.7%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

3

2019年3月期の業績は2018年11月時点の予想を上回った。
売上高2,743億円、営業利益352億円、経常利益344億円。

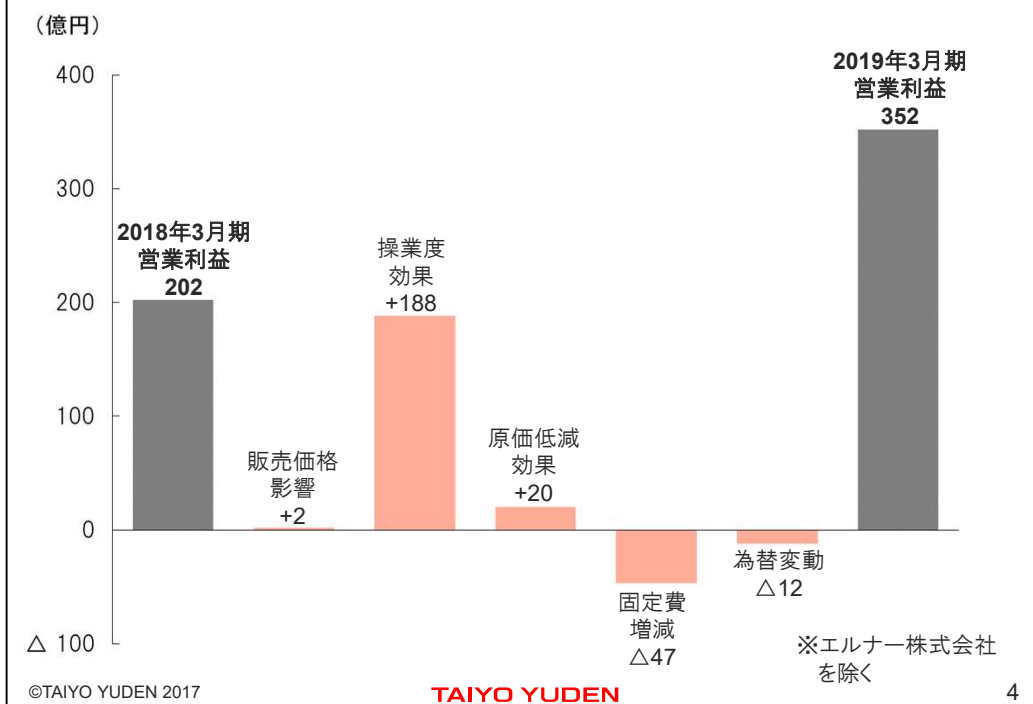
特別損失として通信デバイス事業の固定資産などにかかる減損損失46億円、
韓国子会社の構造改革に伴う事業構造改善費用22億円などを計上。

その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は237億円。

為替は1ドル110.49円、前期に対して約1円円高。
為替の影響額は、売上高に対してマイナス17億円、
営業利益に対してマイナス12億円。

研究開発費は、前期比25億円増の130億円。
設備投資額は、386億円。
約100億円をかけてコンデンサの生産子会社である新潟太陽誘電の第3号棟を建設したため、前期比で140億円の大幅増。
減価償却費は、前期比10億円増の265億円。

2019年3月期 営業利益増減要因



増益要因として、販売価格の値上げ2億円。
コンデンサを中心に、顧客に対して価格是正の交渉を実施。その効果が発現。

操業度効果は188億円。
操業度効果とは、販売数量増減やミックス改善、棚卸資産の増減など。
3月末の全社の棚卸資産は、為替影響など利益に影響がない部分を除いた
実態ベースで前年3月末より45億円増加。

このほか、原価低減効果20億円が増益要因。

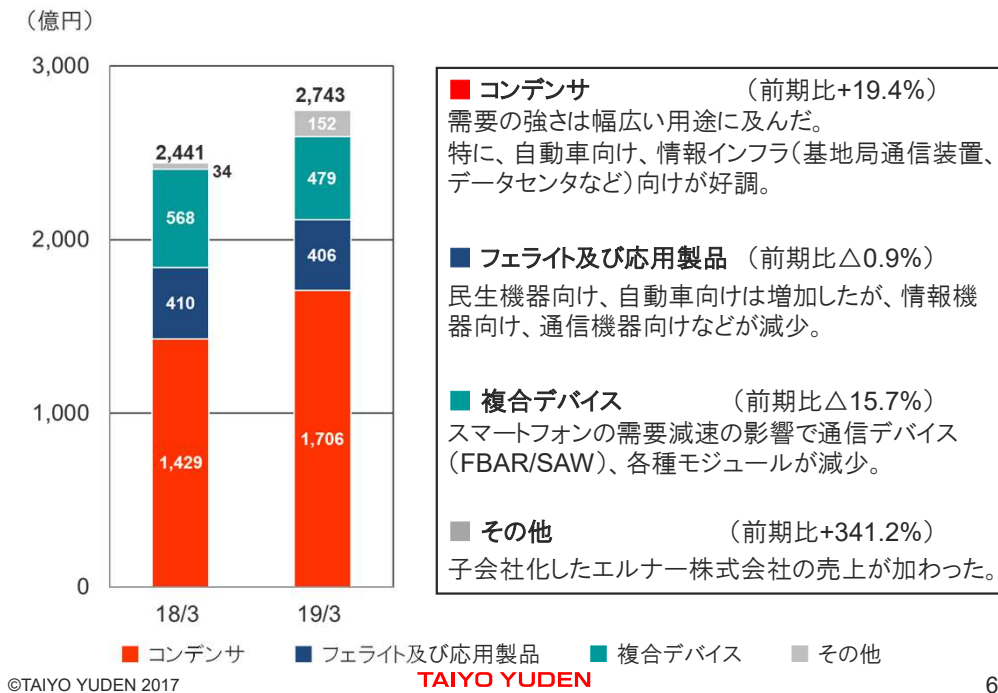
減益要因は、固定費の増加47億円、円高による為替影響12億円。

結果として、営業利益は前期から150億円増加し、352億円。

2019年3月期 製品別売上高

百万円	2018年3月期		2019年3月期		増減	
コンデンサ	142,858	58.5%	170,633	62.2%	27,774	19.4%
フェライト及び応用製品	40,977	16.8%	40,595	14.8%	△381	△0.9%
複合デバイス	56,838	23.3%	47,930	17.5%	△8,907	△15.7%
その他	3,443	1.4%	15,189	5.5%	11,746	341.2%
合計	244,117	100.0%	274,349	100.0%	30,231	12.4%

2019年3月期 製品別売上高



6

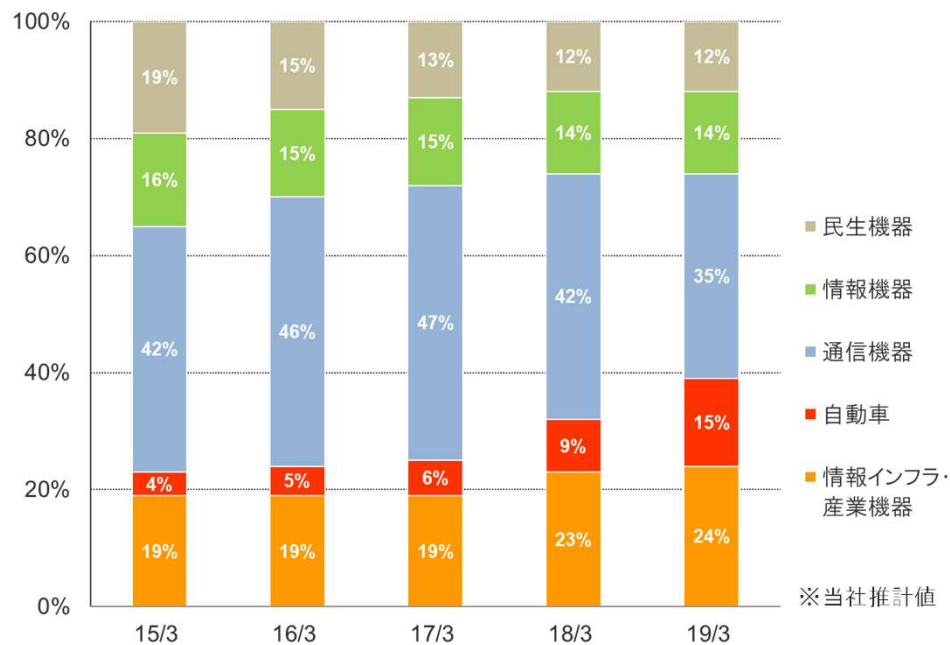
コンデンサの売上高は、前期比19%増の1,706億円。
 自動車、基地局通信装置やデータセンタなどの情報インフラを中心に、
 幅広い用途で需要が強かった。

フェライト及び応用製品の売上高は、前期比微減の406億円。
 民生機器向けと自動車向けは増加したが、
 情報機器向け、通信機器向けなどが減少。

複合デバイスの売上高は、前期比16%減の479億円。
 スマートフォンの需要減速を受け、通信デバイス(FBAR/SAW)、
 各種モジュールが減少。
 なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、60%台前半。

その他の増加は、子会社としたエルナー株式会社の売上が加わったため。

2019年3月期 電子部品の用途分野別売上構成



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

7

自動車向けは15%、情報インフラ・産業機器は24%。
自動車向けはコンデンサ中心に伸びたことに加え、自動車向けに強いエルナー株式会社を子会社化したことにより、目標としていた15%を達成。

情報機器向けは14%、民生機器向けは12%。

通信機器向けは前期から7ポイント低下し、35%。

高い成長性、安定性が見込める自動車や情報インフラ向けに注力し、スマートフォンの市場動向による影響を軽減。
需要変動の影響を受けにくい事業構造ヘシフト。

なお、今回からカテゴリを一部変更し、「自動車」と「情報インフラ・産業機器」という区分を設定。

従来の「自動車・産業機器」という区分から「自動車」を独立。
さらに、当社の産業機器向け売上の中心が基地局通信装置やデータセンタであるため、産業機器という名称を「情報インフラ・産業機器」に変更。

2020年3月期 連結業績予想

2020年3月期 連結業績予想

百万円	2019年3月期		2020年3月期 予想		増減	
売上高	274,349	100.0%	290,000	100.0%	15,651	5.7%
営業利益	35,237	12.8%	38,000	13.1%	2,763	7.8%
経常利益	34,351	12.5%	37,000	12.8%	2,649	7.7%
親会社株主に 帰属する当期純利益	23,687	8.6%	25,000	8.6%	1,313	5.5%

対米ドル期中平均レート	110.49円	110.00円	0.49円円高
-------------	---------	---------	---------

研究開発費	13,039	13,000	△39	△0.3%
設備投資額	38,570	45,000	6,430	16.7%
減価償却費	26,547	28,000	1,453	5.5%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

9

2020年3月期の売上高は2,900億円、前期比6%増収を計画。
前期に引き続き、自動車、情報インフラといった当社が注力している市場に対して高信頼性商品を拡販。

営業利益は380億円、経常利益は370億円、
親会社株主に帰属する当期純利益は250億円と予想。
確実に達成できるよう、販売活動や生産性改善に取り組んでいく。

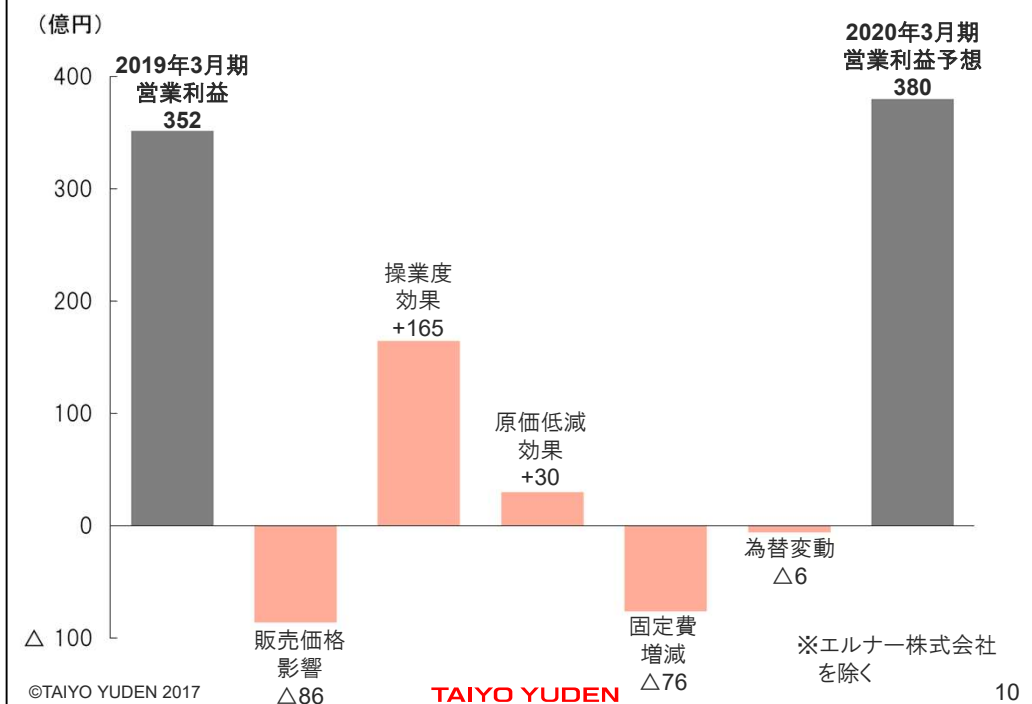
業績予想の前提とした為替レートは1米ドル110円。

研究開発費は、前期並みの130億円。
中期的な事業拡大に向けた新商品、新技術の開発を引き続き推進。

設備投資額は450億円、前期から64億円増加。
旺盛な需要への対応と生産性改善のために必要な投資を実施。
コンデンサは、設備投資と生産性改善によって年間10-15%の能力増強を計画。

これに伴い、減価償却費は15億円増加し、280億円を予定。

2020年3月期 営業利益予想増減要因



増益要因として、操業度効果165億円、原価低減効果30億円。

減益要因として、販売価格影響86億円。

一定の値下がりがあるという前提に立つが、

かつてより緩やかなペースになると見ている。

引き続きアイテムや顧客ごとに価格是正交渉を含めた販売戦略を展開していく。

このほか、固定費の増加76億円。為替変動による影響6億円が減益要因。

その結果、営業利益は28億円増加し、380億円となる見込み。

2020年3月期 製品別売上高予想

百万円	2019年3月期		2020年3月期 予想		増減	
コンデンサ	170,633	62.2%	188,000	64.8%	17,367	10.2%
フェライト及び応用製品	40,595	14.8%	37,000	12.8%	△3,595	△8.9%
複合デバイス	47,930	17.5%	47,000	16.2%	△930	△1.9%
その他	15,189	5.5%	18,000	6.2%	2,811	18.5%
合計	274,349	100.0%	290,000	100.0%	15,651	5.7%

コンデンサは前期比10%増収の1,880億円。
当社の注力する自動車、情報インフラ向けの需要に対応できるよう
能力増強と生産性改善を進め、供給力を拡大。

フェライト及び応用製品は、前期比9%減の370億円。
複合デバイスは、前期比2%減の470億円。
自動車・情報インフラ向けの売上を伸ばし、スマートフォン市場の影響度を
抑制するよう、商品開発や販売活動を推進。

複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、60%台前半となる見込み。

第1四半期の各製品の売上イメージは、第4四半期に対して、
コンデンサは横ばい、フェライト及び応用製品は0-5%増、
複合デバイスは10-15%増、その他は5%前後の減少と予測。
全社合計では、前四半期比0-5%増を見込む。

コンデンサの稼働率は90-95%を予定しており、引き続き高い水準を維持。
全社の在庫は、3月末に対して6月末までにプラス30億円を目標に
出荷のピークに備えて必要な水準の在庫を確保。

補足資料

連結業績推移(半期)

百万円	2018年3月期		2019年3月期		2020年3月期 予想	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	118,180	125,937	133,565	140,783	145,000	145,000
コンデンサ	66,767	76,091	80,168	90,464	93,500	94,500
フェライト及び応用製品	20,223	20,753	21,154	19,441	18,500	18,500
複合デバイス	29,582	27,256	26,369	21,561	24,000	23,000
その他	1,606	1,836	5,873	9,316	9,000	9,000
営業利益	8,775	11,445	14,703	20,534	19,000	19,000
経常利益	10,021	10,531	15,385	18,966	18,500	18,500
親会社株主に 帰属する当期純利益	7,378	8,976	10,980	12,707	12,500	12,500
対米ドル期中平均レート	111.46円	111.43円	109.30円	111.67円	110.00円	

連結業績推移(四半期)

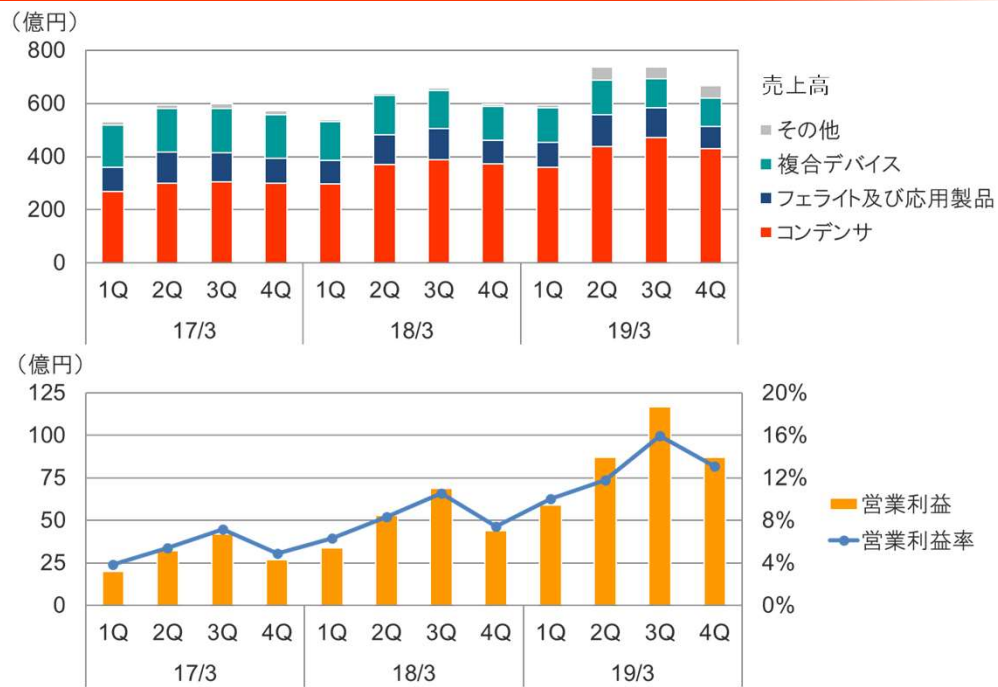
百万円	2018年3月期				2019年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	54,072	64,107	66,053	59,883	59,576	73,989	73,963	66,820
コンデンサ	29,747	37,019	38,800	37,290	36,184	43,984	47,362	43,101
フェライト及び応用製品	8,847	11,376	11,746	9,006	9,228	11,926	11,209	8,231
複合デバイス	14,711	14,871	14,533	12,722	13,208	13,160	10,783	10,778
その他	766	840	972	863	954	4,918	4,607	4,708
営業利益	3,412	5,362	6,985	4,460	5,981	8,722	11,789	8,744
経常利益	4,421	5,599	6,596	3,935	6,896	8,489	11,403	7,562
親会社株主に 帰属する当期純利益	3,113	4,265	5,301	3,675	5,645	5,334	9,069	3,638
対米ドル期中平均レート	111.81円	111.11円	112.23円	110.62円	107.76円	110.84円	112.71円	110.64円

©TAIYO YUDEN 2017

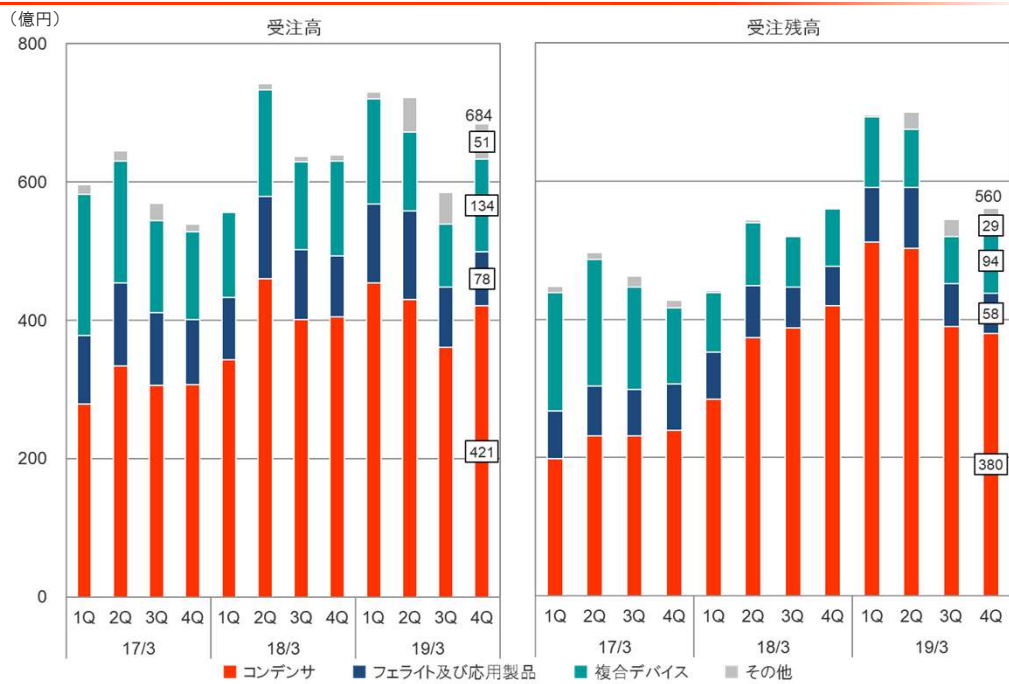
TAIYO YUDEN

14

連結業績推移(四半期)



受注高・受注残高推移(四半期)



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

16

当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN